

山行NO NO. 1736-2
日時 2017.05.04(木) 快晴
山域 越後・菱ヶ岳(974m)～五頭山(913m)
コース 津川IC-磐越道-安田IC-R290-五頭公園キャンプ場駐車場発5:59-岩団扇の
路-菱ヶ岳8:27-雪尾根-五頭山分岐-五頭山10:19-一の峰10:39~11:
08-三の峰小屋-駐車場12:54-「出湯(でゆ)温泉」華報寺・共同浴場-R290
-R41-五泉(ごせん)駅-加茂川・第一貯水池16:26
標高差 上り キャンプ場上駐車場約205m～菱ヶ岳(974m)=約769m
下り "
参加者 L=GT、KH

岩団扇の山、延々と続く雪尾根

2日目は、比較的楽な、菱ヶ岳～五頭山。五頭山公園駐車場から出発。天気は今日も快晴。公園は水洗トイレがあり、快適だった。丁度、FMでロリンズをやっていて、朝から絶好調。沢沿いに上り、すぐ急登りが始まる。錨草、稚児百合・雪椿が迎えてくれた。快適な道を上る。岩団扇が出て来た。結局、この山は、最初から最後まで岩団扇の山だった。兎に角、凄い。

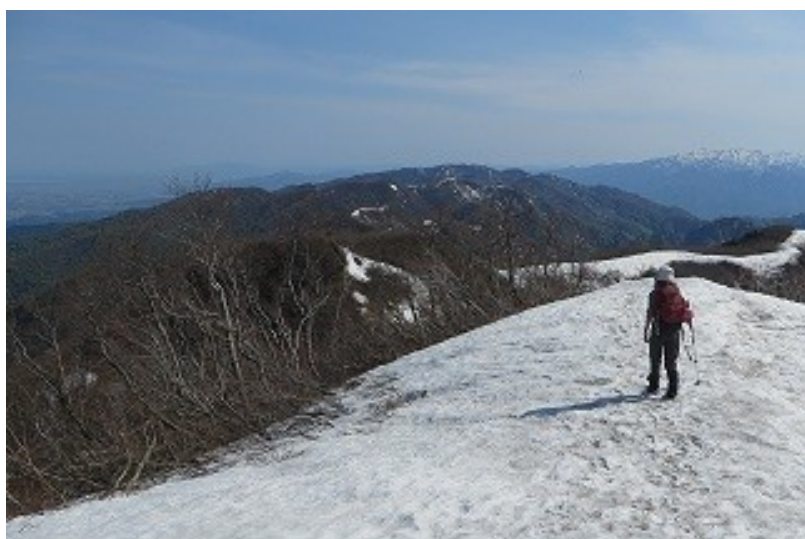


岩団扇 (いわうちわ)

岩団扇は、静岡県に少ない。色も白・淡いピンク・濃いピンクと様々。菱ヶ岳が近づくと、1000m満たない山だが、雪が出て来る。頂上に着いた。展望は素晴らしい。昨日遠かった、二王子山が真近か。2011年5月に上った。頂上には、大きな基石がゴロゴロしていた。昔は、立派な社があったのか。五頭山に向かう。なだらかな雪尾根が延々と続く。5月の1000m満たない山で、これほどの雪尾根が続くのは、流石に越後である。登山者は、2～3名。逆コースはいない。



菱ヶ岳頂上



雪尾根が続く





越後雉蓆

途中の開けた場所に、見事な越後雉蓆（えちごきじむしろ）が咲いていた。ここで大休止。更に進む。ひと上りで三の峰と五頭山分岐。五頭山に上らない方もいたが向かう。簡単に着いた。特に山名柱は無かった。先着の地元の方が周りの山を教えてくれた。空気が澄んでいると、烏海山が見えるそうだ。飯豊連峰は、手の様に近い。長靴で花束を持った地元の方がいた。毎週上っているそうだ。地元の方は長靴が多い。靴底がガジガジになっている。一の峰に向かい、ここで昼食。多くの方が昼食。冬は写真の石碑が隠れる程の積雪だそうだ。連休で父・男子の親子がいた。この方、出湯温泉から上ったが、三の峰避難小屋分岐で道を間違え、キャンプ場に戻ってしまった。お父さんは、トホホだった。出湯方面に帰る方に乗せて貰いやれやれだった。



一の峰・長靴の地元オジサン



三の峰避難小屋



出湯温泉・華報寺

先ほどの長靴オジサンが花束を地藏さまに上げていた。

奥さまの病気を心配しているとのこと。

昼食を済ませ下山。避難小屋でも沢山の方が食事中だった。

中に小学生4年の女の子の家族がいた。

更に下からゾロゾロ大勢上って来る。天気が良く暖かく連休。五頭山は、市民に愛されている山なのだ。

次第に暑くなる尾根を下り、キャンプ場着。周遊コースが出来る山はイイ。

温泉は昨日と同じ出湯温泉の華報寺・共同浴場の弘法大師の温泉に入った。その昔、弘法大師が温泉を掘り当てたとの伝説。

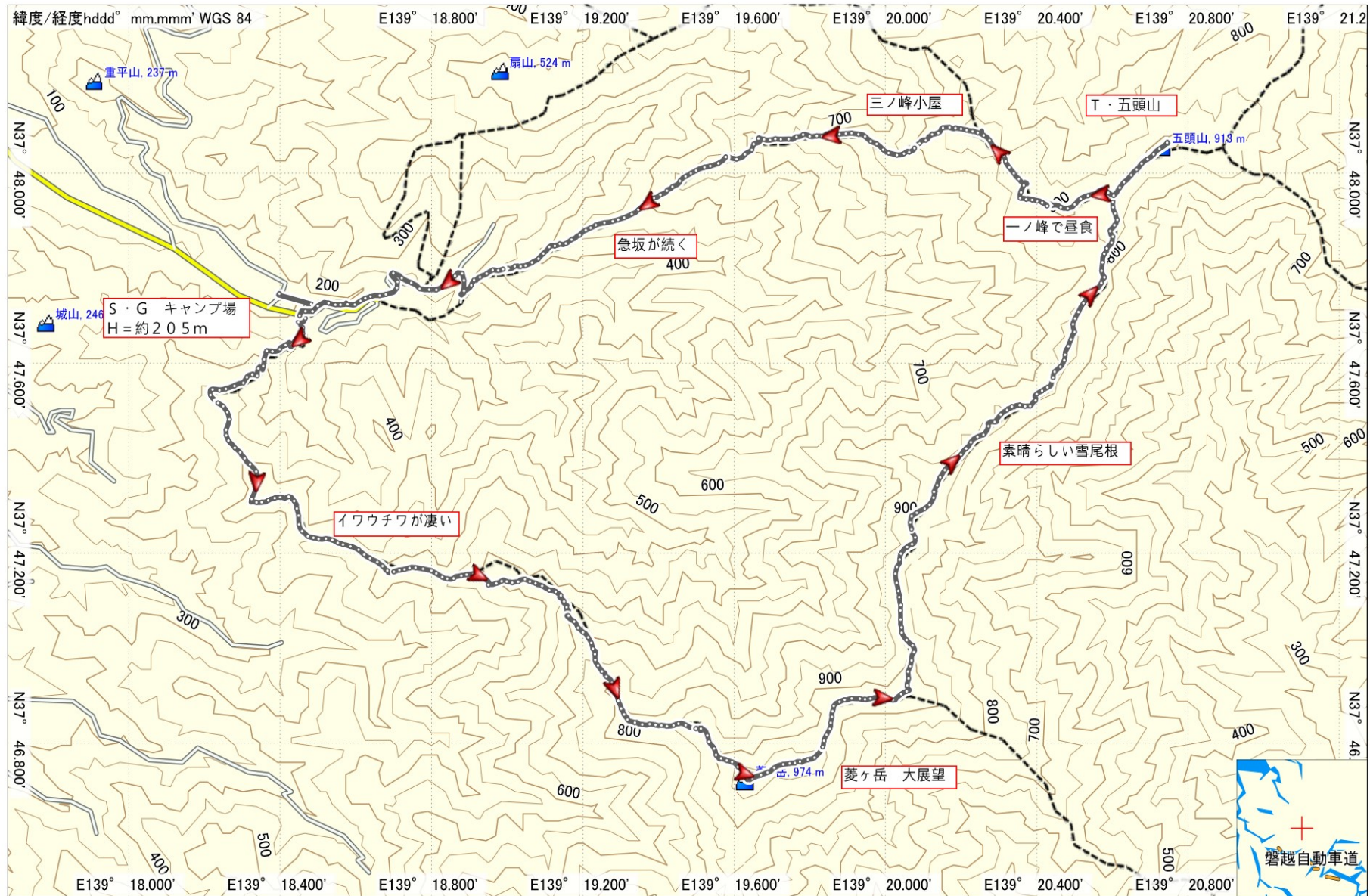
意外だったが、この寺は、曹洞宗だった。昔は、真言宗だったと思うが。

温泉は湯船の真ん中から噴出している。ただ、それを跨いたり、お尻を向けることはご法度。弘法大師に失礼ということだ。入口の看板に書いてある。

この温泉は2011年、二王子山（にのうじやま）登山の際もに入った。当時の入湯料は200円。今回も200円。良心的である。早朝から開場しているのもイイ。

お湯は、全く濁りがなく透明度は100%でキレイ。ややぬるいので、冬は温まるのに時間が掛かるそう。泉質は、ラジウム温泉で飲用に良いとのこと。4リッターいただいて、料理に使った。

今回は新発田在住のK氏に会えなくて、ちょっと残念でした。



Japan Topo 10M Plus V3
CaveasMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/05/07 5:37:48

GARMIN